



ラベンダー

- 分類：シソ科 常緑低木
- 属名：Lavandura
- 原産地：地中海沿岸



特徴

Lavandula はラテン語の lavare(洗う)が語源で、ローマ時代に入浴時の香水として使われていたことに由来しています。晩春から夏にかけて紫や白やピンク色の小さな花をたくさんつけ、芳香があり、「香りの女王」と呼ばれます。紫色の花が最もポピュラーで、ラベンダー色とは薄紫色を意味します。殺菌、消炎、鎮静効果のある酢酸リナリルを含んでいます。花や茎からとれるラベンダー油は香水などの化粧品の原料になります。

種類

- イングリッシュラベンダー(アングスティフォリア系) (学名：*Lavandula angustifolia*) ラベンダーの代表的な品種で、最も香りが良いです。高温多湿に弱いですが、寒さには強く、0℃以上あれば外で冬越しできます。
- フレンチ・ラベンダー(ストエカス系) (学名：*Lavandula stoechas*)穂の頭にリボンのような苞葉があるタイプ。
- レースラベンダー (プテロストエカス系) (学名：*Lavandula multifida*) やわらかいシダのような葉に、特徴のある花の形ですが、香りは良くなく観賞用です。デンタータ系ほど耐寒性がないので、春まで室内の日当たりのよい窓辺で育て、夏は木陰の涼しいところに置きます。
- ラベンダー・デンタータ (学名：*Lavandula dentata*) フリンジラベンダーとも呼ばれ、葉に細かい切れ込みがあり、ローズマリーのようなスパイシーな香り。フレンチラベンダーよりも目立ちませんが、花穂の先端に兎の耳のような苞があります。四季咲き性が強く、陽だまりであれば真冬も咲き続けます。また、暑さにも強く、生育旺盛で、強健なので、暖地向きで、初心者にも育てやすいです。

植え付け

播種では日数がかかり、発芽率もよくないので苗を植え付けます。日当たりと水はけ、風通しの良い場所に植えます。できれば傾斜のあるところが良いです。

水やり・肥料

もともと乾燥気味的环境を好みますので、表面が乾いてから水をやるようにします。肥料も控えめにします。

置き場所

鉢植えなら、梅雨時の雨を避け、軒下に置いたりしましょう。ベランダなどの床面が熱くなるようなところでは、レンガなどで鉢を持ち上げて、風が通るようにしてやるとだいぶ違うようです。

剪定

夏が来る前に、蒸れないように切り戻しやすかし剪定をします。切り戻しは全体の形に合わせて、わき芽の上で切ります。すかしは内側の込んだ枝を付け根から切り取って間引きます。また、冬場に全体の 1/3 くらいの高さになるように剪定をしておくと、株が低く抑えられます。

植え替え

夏に植えかえたりすると枯れますので、春か秋の気候の良い時に行います。土がある程度乾いた状態で、根鉢をあまり崩さないように余分な土を落とし、ひとまわり大きめの鉢に植え替えます。庭植えのものはできるだけ植えかえない方がよいでしょう。

殖やし方

挿し木。春(5～6月)と秋(9～10月)のある程度温度(16～20℃くらい)のあるときに行います。花穂のない新梢(少し硬くなったもの)を8～15cmに切り、下葉を4～6cmとり、珪酸塩白土を少し混ぜたバーミキュライトを湿らせて、割り箸で穴をあけて挿し、半日陰において乾かさないようにします。

病虫害

ウドンコ病、アブラムシ。